

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	岳温泉日本一の健康保養温泉地創造事業		
(2) 実施団体名	岳温泉旅館協同組合	(3) 対象地域	福島県 あだたら高原 岳温泉
(4) 代表団体名	岳温泉旅館協同組合	(5) 推薦団体名	二本松市

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	岳温泉ならではの体験プログラムの開発及び科学的データの収集	
	実施主体	岳温泉旅館協同組合	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 1) 長期滞在をしても飽きることのないプログラムづくり、人材育成及びその効果の実証構築 2) 楽しさを演出するソフトづくり</li> <li>・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月</li> <li>・実施場所: 岳温泉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 「運動」ウォーキング・コースの開発、ウォーキングの身体的影響分析、「温泉」温泉入浴プログラムの提言、「体験」植生環境調査の実施、受入資格制度情報提供の枠組み作り、「新たな健康素材」新コース開発、「食」の取組は②で開発。</li> <li>・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月</li> <li>・実施場所: 岳温泉、福島大学、上越教育大学</li> <li>・取組の結果: 地形療法トータルウォーキングプログラムを開発。ウォーキングに特化するために福島大学と連携しモニターツアーによるデータ収集(15名参加)を行い、ウォーキングの身体的影響分析を行った。</li> <li>・ウォーキング前後での温泉利用の関係分析と温泉の活用法について報告書を取りまとめた。</li> <li>・準高地地形であるウォークコースの自然環境調査、案内設置を実施。</li> <li>・体験プログラムを提供する人材育成の資格制度、情報提供の環境整備。</li> <li>・各プログラムの商品化にむけた検討会を実施し目処がたつた。</li> <li>・来訪者に対する岳温泉ならではの資源環境を活かした提供方法を想定した開発・分析に取り組んだが商品販売、プロモーションについて次年度以降で重点的に取り組んで宿泊人員増へつなげるための方策を考えることが課題として残った。</li> </ul>
	<b>取組②</b>	企業等の従事者をターゲットとしたプログラム開発	
	実施主体	岳温泉旅館協同組合	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 1) 企業向け健康増進プログラムの具体化(メタボ対策、メンタルヘルス対策)</li> <li>2) 会社の健保組合などの企業内健康増進との共</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 企業・団体向け健康増進プログラム開発、健康保養温泉地滞在プログラム体験</li> <li>・実施時期: 平成20年11月28日(金)・29日(土)、12月5日(金)・6日(土)4日間</li> <li>・実施場所: 岳温泉、二本松市</li> <li>・実施内容参加者: メンタルヘルス対策プログラム9名・メタボ対策プログラム14名</li> <li>・取組の結果: ヘルスツーリズム研究所と共同で、企業・団体担当者が参加するプログラム体験を実施。</li> <li>・岳温泉の特徴を活かした滞在プログラムを体験戴き、次年度以降商品化PRしていくにあたり、参考となるアンケート回答を得た。</li> <li>・アンケート結果: メンタル体験で心拍変動・快眠の調査も実施し概ね満足80%と好評。メタボ対策体験は概ね満足70%と好評。郡山女子大学と連携して開発したメタボ対策料理メニューに対しては、概ね満足80%の高い評価。</li> <li>・悪天候時の対策、プログラム量の調整は課題として残った。</li> </ul>	
<b>取組③</b>	近隣の病院との連携によるメディカルツアー受け入れ		
実施主体	岳温泉旅館協同組合		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 1) 人間ドックなど健診の受け入れによる地域医療の活性化</li> <li>2) ソフト中心のインフラづくり(健診前後のプログラム開発)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 近隣医療機関の情報収集とメディカルツアー開発を探り、商品化に向けた調査とインバウンド受入に向けたツール整備</li> <li>・実施時期: 平成20年9月～平成21年2月</li> <li>・実施場所: 岳温泉、二本松市、郡山市、福島市</li> <li>・取組の結果: 今年度は近隣の医療機関の情報収集とメディカルツアーの開発の可能性を中国に絞って実施し、ウォーキングへの興味に対する潜在ニーズが高いことが明らかになった。</li> <li>・外貨状況により変動的な部分はあるものの、岳温泉においてインバウンド受入数は前年比で2.5%と増加している。(1,672名から4,090名へ)</li> <li>・岳温泉の健康増進プログラムは、取組①で商品化の目処がたち、これらを活かすことで十分に新たな可能性は確認できた。</li> </ul>	

	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
(7)実施体制	<p>岳温泉旅館協同組合 実施主体(主担当: 取組①、②、③)</p> <p>二本松市 (担当:取組 ①、②、③) (支援)</p> <p>福島大学 県立医科大学 郡山女子大学等 の専門家 (主担当: 取組①、②、③) (共同調査体制)</p> <p>ヘルストゥリズム研究所 JTBグループ各社 (主担当:取組②、③) (サポート体制)</p> <p>企業内健保組合 (主担当:取組②) (プログラム共同開発)</p>	<p>取組①岳温泉ならではの体験プログラム開発・モニターツアーで科学的データの収集を行い、福島大学が調査をとりまとめた。各専門家からの調査をトータルウォーキングプログラムとしてのまとめを担当した。</p> <p>温泉入浴は、上越教育大学清水教授が調査を行い、ウォーキングと温泉の関係を中心に、プログラム化。</p> <p>植生環境調査は、岳温泉文化協会が、コース周辺の環境植生を調査とりまとめを行った。</p> <p>受入資格制度、商品化検討事業、各種ツール製作は、岳温泉旅館協同組合が担当し、専門化からの報告から来年度以降地域に浸透させる枠組作りが出来た。プログラム提供スタッフの確保を外部を含めて準備する必要がある。</p> <p>取組②企業等従事者向けプログラム体験では、ヘルストゥリズム研究所が実施、企業担当者がプログラム体験し生の感想を聞く事が出来た。岳温泉旅館組合が実施施設との調整管理人員手配等現地準備を担当し計画通りに実施できた。</p> <p>心拍変動は、名古屋市立大学早野教授が、快眠は東海学園大学榎原教授が調査分析とりまとめを行った。</p> <p>フォレストセラピーひのき山コース、森林リスクマネジメントは、福島県環境アドバイザー弦間氏が担当し、体験プログラムでも好評の結果となり、来年度以降地域浸透に向けて人材育成がポイントになる。</p> <p>新コーステイastingコースは、福島大学が調査・報告を担当し、ウォーク前の体力レベル確認につながる取組みとなった。</p> <p>スローフード伝統野菜を活用した料理メニュー開発は、郡山女子大学三瓶教授が担当し、プログラム体験で提供。旅館の料理スタッフの協力によりコース料理として提供された。次年度以降も季節の素材を活用して定着を図っていく。</p> <p>広報用映像素材他ツール関連については、上記専門家からの報告も踏まえて、岳温泉旅館協同組合が担当し作成をした。21年度以降の広報宣伝においての活用にも重点的に実施する。</p> <p>取組③当初計画では、受入までを視野に入れていたが、本年度は周辺医療施設の調査と準備までを行った。</p> <p>ヘルストゥリズム研究所が調査、取りまとめを担当し、近隣医療機関と海外は、中国に絞って実施した。</p> <p>各種ツールは岳温泉旅館協同組合が担当し、調査内容を受けて地域との調整を行い作成した。</p> <p>二本松市は全取組に関し、協力体制を維持し、指導・調整役を担った。</p> <p>事業全体を岳温泉旅館協同組合が、進行、調整、確認を行い実施した。エイエイピーをコンサルとして活用した。21年度以降の展開を視野にいれると実誘客の面では、交通会社・媒体社(健保関連連)・関連メーカーや流通店舗タイアップ等との連携で、旅行商品づくり・販売を手がけられる団体との連携により消費者への接点の拡大が必要である。</p>
(8)取組により得られた成果 1・2	○成果1→健康保養温泉地化による、宿泊人員を増加	
	H19 36万人	H20(当初予定していた目標) 37万人
	H20(実際に得られた成果)	
	<p>・健康保養温泉地としての岳温泉ならではの滞在プログラムであるトータルウォーキングプログラムの開発、とウォーキング効果の実証で商品化目前に到達。・滞り時プログラムの担い手である地域スタッフへの地域資格の枠組みが確立。</p> <p>・市全体の平成20年度観光入込数は現時点で未集計であるが、岳温泉地区への観光客数は、平成19年度10～12月期96,266名から燃料高騰、景気後退の影響もあり、H20年同時期88,843名へ減。しかし宿泊予備群でもある日帰り客は平成19年度10～12月期17,249名からH20年同時期19,552名へ増加。モニターツアーやプログラム体験の満足度も高く、今後の観光資源化及び宿泊人員の増加への波及効果が期待される結果となった。</p>	
	○成果2→健康保養温泉地滞在がメタボ対策、メンタルヘルス面でも効果があることを実証し、企業向けあるいは健保組合等保険者向け新たなマーケットの開発、新商品の開発と販売	
	H19 特になし	H20(当初予定していた目標) ①健康保険組合などと連携し、現地にて実験プログラム実施。 ②帰宅後のメタボ対策プログラムを作成し、健康データ管理、数ヵ月後、更に実験プログラム実施、追跡計測
	H20(実際に得られた成果)	
	<p>・メンタルヘルスプログラム9名、メタボ対策プログラム14名の参加にてプログラム体験を実施。新しい岳温泉の商品も含めて体験してもらい計23名から回答を回収。</p> <p>・体験プログラムの評価は良好(80%)。特に新プログラムであるフォレストセラピーひのき山プログラムは、ほぼ全員が高評価。地域スタッフと参加者の交流し、岳温泉ファンが増えた。</p> <p>・地域食材を活用したヘルシーメニューも予想以上に高評価を得た。どちらも今後の有力プログラムとして可能性が広がる結果となった。</p> <p>・商品化の際のプログラム対応スタッフの育成・確保、並びに、取組①で確立した地域資格制度の充実・連携により顧客ニーズ・満足に導くことが次年度以降の課題として残った。</p>	

(8)取組により得られた成果3	○成果3→ 近隣の医療施設と協力し、最新健診機器を活用したメディカルツアーの開発	
	H19 特になし	H20(当初予定していた目標) ①医療施設との協力体制の確保、受入れソフトの充実 ②健診前後の健康に配慮したツアープログラムの作成(食、運動等)
	H20(実際に得られた成果) ・メディカルツアーのニーズは、日本の医療に対する信頼が背景にある、中国の富裕層を中心に高い状態で、日本の環境、温泉、和食等への意識も高い。また、近隣医療機関では施設によって温度差があるものの将来テーマとして前向きに取組む施設が見られる。その一方で、来訪者からは言葉、受入の問題があげられ、特にメディカル通訳については専門知識を持った担当者が必要な状況ではあるが、他地区に先駆けて成功事例が構築出来れば、有望なマーケットになりうる状況であることが確認できた。 ・滞在の際のオプションプログラムとして、健康と連動するウォーキングは有望であり、継続してブラッシュアップが必要である。 ・岳温泉へのインバウンド客来訪者数は、平成20年度観光入込数は現時点で未集計であるが、平成19年1～12年期1,672名から平成20年同時期4,090名に増加。受入態勢は構築、次年度以降プログラム紹介ツールを活用しプロモーション、受入体制を展開していく基盤を確立することができた。	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度に実施した岳温泉ならではの体験プログラム開発と市場にアピールする為とその裏づけとなる専門家による分析調査は終了。</li> <li>・健康ウォーク温泉地としての岳温泉の魅力・資源が「トータルウォーキングプログラム」として確立され、実証されたが21年度以降もフォローアップして展開していく。</li> <li>・企業、健保組合等向けのプログラム体験で課題となった悪天候対策、提供サービス方法の確立を図る必要がある。</li> <li>・インバウンドニーズに対応するプログラム提供方法、近隣医療機関との連携による健康保養プログラムを確立していく必要がある。</li> <li>・今後は誘客増につなげる積極的プロモーション活動と、岳温泉の健康・エコイメージを企業や媒体とのタイアップによる情報提供強化を行い、より露出度を高めるマーケティング・販売促進強化に注力していく必要がある。</li> <li>・地域おもてなしの質を高めるために「ウォーキング」「自然(森のリスクマネジメント含む)」「文化(歴史・文学・地元食の文化)」「健康入浴と足湯効果」の4分野を地域資格として本格導入し人材育成を行い地域一丸となつての取り組みを継続し、外部人材も活用しておもてなしを形成しうる取組が必要である。</li> <li>・自然豊かで魅力的な夏季需要回復を意識して、タイアップイベントの連続展開や森林インストラクター(ネイチャーガイド)の常駐化などを実現する。</li> <li>・21年度は増客元年とするべく内部結束を固め、リピータ、新規顧客を増やしていくために、健康ブランド地としての魅力広報宣伝・パブリシティ活動を軸にした活動を展開する。</li> </ul>	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	1. 本格導入に向けた内容調整(平成21年度～22年度) ・マーケティング調査、プログラム改善、販売チャネル、流通ルートの拡大、プロモーション活動、	①. 夏休み期にフォーカスした地域魅力向上のための取組み(H21年度6月～8月) ・実施主体:岳温泉旅館協同組合 ・実施内容:ネイチャーウォークガイドの雇入れ・研修・健康、エコイメージ企業とのタイアップイベント・広告・Web・パブリシティ活動 悪天候時対策、提供サービス方法対策検証 〔活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1000万円)、参考:自主財源として岳温泉旅館協同組合21年度予算600万円を計上〕
	2. 本格導入に向けた内容調整(平成21年度～22年度) ・マーケティング調査、プログラム改善、インバウンド受入体制、人材育成	②. 地域カボトムアップとリピート滞在促進のための地域版資格導入による受入れ人材育成業務(H21年度6月～2月) ・実施主体:岳温泉観光協会 ・実施内容:月一回の資格セミナー、フットマッサージセミナー、各旅館の商品開発推進のための研修、インバウンド向けプログラム提供研修、地域資格制度PRの為のツール制作、有資格者向けの制服開発 〔活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)、参考:自主財源として岳温泉観光協会21年度予算50万円を計上〕
	3. 本格導入に向けた関係機関調整(平成21年度～22年度) ・地域・行政・産学官、エージェン	③. 健康保険組合・企業への広報宣伝・キャラバン(H21年度6月～2月) ・実施主体:岳温泉観光協会 ・実施内容:健保団体エージェン・交通機関広報キャラバン、健康保険組合ならびに健康関連企業キャラバン、スポーツ・アウトドアレジャー製品メーカー、流通(ことに大型スポーツ店など)飲料メーカー、媒体等とのタイアップ活動を展開する。 〔活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額600万円)、参考:自主財源として岳温泉観光協会21年度予算100万円を計上〕
	当初提案になし	④. 温泉街中心部を活用したプログラム体験・期間限定そぞろ歩きの復活(H21年度7～8月) ・実施主体:岳温泉旅館協同組合、岳温泉観光協会、岳温泉飲料組合、岳温泉商業組合 ・実施内容:交通導線の変更を含む期間限定おもてなし・プログラム体験によるヒマラヤ大通りの活性化 〔活用を希望する制度:温泉街通り活用に関し国土交通省社会実験助成金を申請予定〕

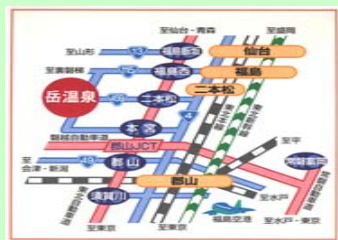
◆主な実施取組の内容◆

**取組①：岳温泉ならではの体験プログラムの開発及び科学的データの収集**

実施主体：岳温泉旅館協同組合

実施内容：専門家によるウォーキング・コース・植生環境・温泉入浴調査分析、ウォーキングの身体的影響分析。新コース開発。受入資格制度構築  
取組の結果：これまでのウォーキングプログラムを進化させ福島大学等との連携によるデータ収集（温泉入浴調査分析・コース周辺の植生環境調査・地域人材育成の資格制度構築・来訪者への情報提供環境整備）を実施。

- ・岳温泉ならではの環境を活かした提供方法を想定した開発・分析を行い広報ツール作成に取り組む。
- ・次年度以降フォローアップしていきながら本格導入につなげていく基盤づくりが出来た。



岳温泉位置図



ウォーク身体影響度調査・呼気ガス測定



調査器具装着準備風景



温泉入浴体操

**取組②：企業等の従事者をターゲットとしたプログラム開発**

実施主体：岳温泉旅館協同組合

実施内容：企業・団体担当者が参加するプログラム体験を実施。「メンタルヘルス」・「メタボ対策」岳温泉の特徴を活かした滞在プログラムを体験。新コース開発、地域食材料理コース開発も実施。

取組の結果：「メンタルヘルス」わが国初の実証実験研究“心拍のゆらぎ”の継続観察により、岳温泉で「快眠」を得られるかを科学的に検証。

- ・新コースひのき山を開発し、でフォレストセラピーを体験し好評を得た。
- ・「メタボ対策」ではウォーキングプログラム、新コーステストコースやノルディックウォーキング体験、福島県産食材で宿泊も含め1日1700Calヘルシーメニューの食事を提供し好評を得た。
- ・次年度以降商品化PRに向け参考となる回答を得た。



ヘルシー料理会席



ウォーキング体験



フォレストセラピーコース体験



福島中央テレビ取材番組「ゴジテレchu」



福島民友新聞取材記事

**取組③：近隣の病院との連携によるメディカルツアー受け入れ**

実施主体：岳温泉旅館協同組合

実施内容：インバウンドメディカルツアー受入の調査と準備

- ・メディカルツアーニーズ調査（中国）
- ・近隣医療施設の情報収集調査（4施設）
- ・受入に向けた情報ツール整備

取組の結果：ターゲットとする中国富裕層には日本医療に対する信頼、日本への興味関心（温泉・和食・環境など）分析。

・近隣医療施設では取組みに前向きな施設があり、協力体制を構築し、新たな成功事例を生む事がマーケット拡大につながる可能性が大きい事を確認した。

・受入体制（メディカル通訳を含む）の構築と中国人の滞在期間中のオプションプログラム提供を取組①・②と連携発展して行っていく基盤を確立した。



◆取組実施による成果・今後の展開◆

平成20年度は岳温泉の健康温泉地としてのブランド構築のためのモニターツアー・プログラム体験によるデータ収集に注力、散在していた健康ウォーク温泉地としての岳温泉の魅力が「トータルウォーキングプログラム」として確立され、実証される展開になった。

21年度は前年度のデータを活用し、フォローアップしながら「地域資格」の本格導入を図り人材育成に取り組むとともに、外に打って出る積極的プロモーションを展開する。

岳温泉の健康イメージ、エコイメージに呼応できる企業や媒体とのタイアップにより、夏季タイアップイベントの連続展開や森林インストラクター（ネイチャーガイド）の常駐化などを実施。また温泉街のメインストリートであるヒマラヤ大通りを中心にした賑わいの復活を目指す集客元年と位置づけ、誘客促進策を展開していく。